

そういうことか

がん検診

01

検診は症状がない人が対象

無症状のうちに「がん」を早期に発見し治療することにより、がんによる死亡のリスクを減らすことができます。症状がある場合は、すぐに医療機関を受診してください。

02

検診と健診の違い

「検診」は特定の疾病を発見するために行われ、要精密検査の場合、確実に診断することが必要となります。

「健診」は、健康かどうかを調べ疾病のなりやすさを判定するために行われ、異常の場合、発病を防ぐための指導を受けることなどが必要となります。

03

がん検診の目的とは

がんを早期発見し、適切な治療を行うことでがんによる死亡を減らすことです。自治体が市民を対象に有効性が確立された方法で実施する検診を「対策型検診」と言います。

「対策型がん検診」と「任意型がん検診」の違い

	対策型がん検診 (住民検診型)	任意型がん検診 (人間ドック型)
目的	市民の死亡率を下げる	個人が自分の死亡リスクを下げる
方法	死亡率減少効果が確立していて、受診者の不利益が最小になる方法	個人によって様々な死亡率減少効果が確立している方法が望まれる
費用	公的な補助により、一部自己負担	全額自己負担
利益と不利益	限られた資源の中で、利益と不利益のバランスを考慮し、集団にとっての利益を最大化	個人のレベルで利益と不利益のバランスを判断

がん検診の基本条件

- 1 がんになる人が多く、また死亡の重大な原因であること
- 2 がん検診を行うことで、そのがんによる死亡が確実に減少すること
- 3 安全で精度の高いがん検診を行う検査方法があること
- 4 発見されたがんについて確立した治療方法があること
- 5 1~4の条件を備え、総合的にみて検診を受けるメリットがデメリットを上回ること

メリット

- ・早期発見、早期治療による救命効果。
- ・早期発見による身体的・経済的負担や治療の時間が一般的に少なくてすむ。
- ・「異常なし」と判定された場合の安心感。

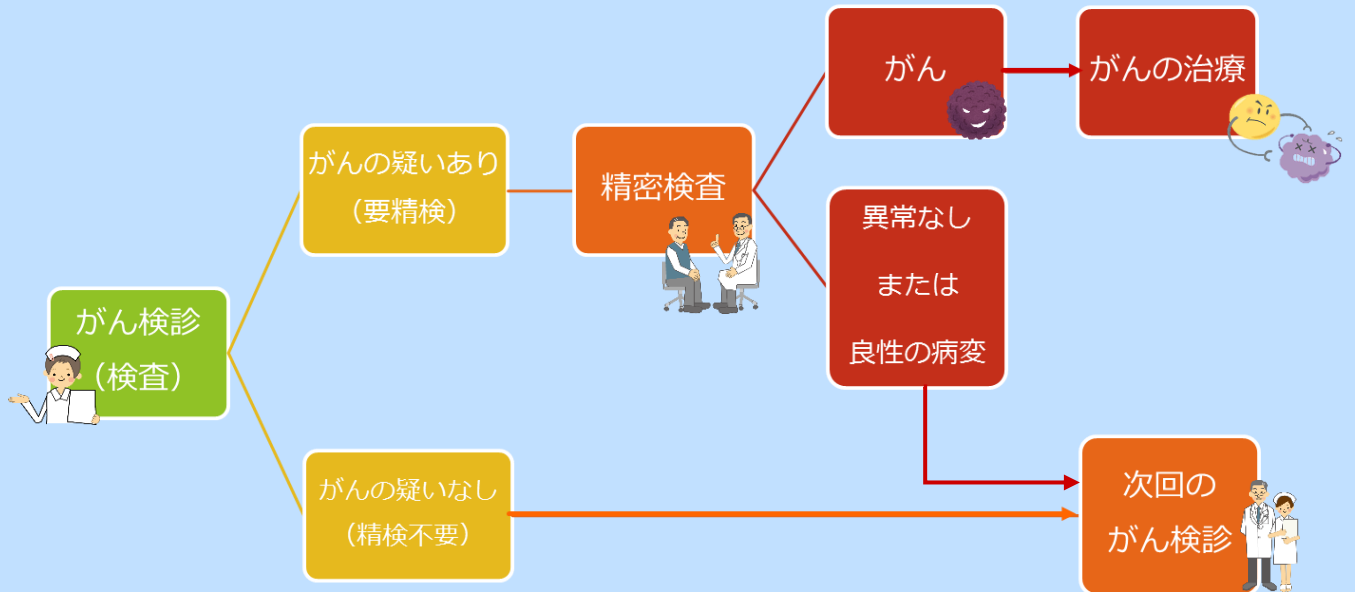
デメリット

- ・100%がんを発見できる検査ではなく、精密検査であっても実際にがんの人は約5%程度。精密検査になった不安感や不必要な検査や治療を招く場合もある。
- ・検査によって身体に負担がかかることがある。

これらのことを踏まえ、国の指針に基づき実施している検診は

胃がん・肺がん・大腸がん・※乳がん・※子宮頸がん（※女性のみ）検診です

がん検診の流れ



がん検診 Q&A



Q. 気になる症状があるから検診を受けたいのだけど・・・

・ A. 症状がある場合は、検診ではなく必ず医療機関を受診し、診断のための適切な検査を受けてください。

がん検診は「がん」がないか調べる検査です。検診の結果が分かるまで時間を要す場合もあり、症状のある場合は、症状の原因を診断するために適切な検査を行ってください。

Q. 「要精密検査」だと言われたけど本当に精密検査は必要なの？

・ A. 「要精密検査」と判定されたら必ず精密検査を受けてください。

がん検診で精密検査が必要と判定された場合、「がんの疑いがある」可能性があります。より詳しい検査を行い、本当にがんがあるかを調べる必要があります。「症状がない」「健康だから」といった理由で精密検査を受けないと、がんを放置してしまう可能性があります。

Q. 最近は色んな方法でがんを発見できて聞いたのだけど・・・

・ A. 国の指針に定められている有効性が確認されたがん検診以外は、本当に効果があるか証明されていません。

奈良市では国の指針に基づき、死亡率減少効果を示す証拠があるもので、安全で精度の高い検診を実施しています。